

平成29年度 発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業  
(発達障害の可能性のある児童生徒に対する教科指導法研究事業)  
成果報告書

実施機関名 (学校法人 光華女子学園)

1. テーマ

学校生活への不応適未然防止にむけて  
達成感・自己肯定感を高める支援と授業改善  
～つまずきと障害特性を踏まえて～

2. 問題意識・提案背景

今までの取組から、発達障害の可能性のある児童生徒への早期支援と支援の連続性の必要を痛感した。中学高等学校において、組織体制づくりや授業のユニバーサル化、研修等にも取り組んできたが、小学校での取組の必要性と日々の授業の在り方に大きな課題が見えた。

「困り感」のある児童生徒が授業の中で、「分かる・できる・楽しい」と感じるように授業改善をすること、またその基盤である学級・学校づくりをすることで、学校生活への不応適を未然に防止することにつながるを考える。

3. 目的・目標

「主体的・対話的・深い学び」等授業改善が叫ばれている今、発達障害の可能性のある児童生徒に、分かりやすい、障害の特性を理解した授業の工夫が必要である。「段階をふまえた方法をマスターさせる」また「困りの内容ごとに多様な方法を提示する」などにより、授業参加への不安が和らぎ、不応適の未然防止につなげていく。

今まで行ってきたユニバーサル授業の取組をもとに、小学校、中学校、高等学校の教員がともに教科指導法の研究をすすめて、支援の連続を図りたい。

今年度、小学校から高等学校までの「国語・算数数学・英語」科を中心に、「つまずきやすい場面」の想定や「スモールステップを踏ませる」ことなど授業内の工夫を出し合い共通認識を深めていきたい。

具体的には次の課題等を教科主任会議や小中高担当者会議で交流協議し研究を行う。

- 授業への参加（活動）
  - ①クラス内での理解促進 ②ルールの明確化 ③刺激量調整 ④時間の構造化
- 授業内容の理解
  - ①焦点化 ②展開の構造化 ③学習内容の細分化（スモールステップ等）
  - ④情報の伝達の工夫（視覚化等） ⑤感覚の活用（個の違いに対応等）
  - ⑥共有化（ペア・グループ学習等）
- 理解した内容の習得状況の確認の仕方
- 習得したことの活用

#### 4. 主な成果

- 児童生徒の発達状況に応じた個別の支援について、研修会や個々のケース会議等で共通理解を図りながら実践にむかっていく方向が確認できた。教員と児童生徒との信頼関係やよりよい人間関係の育成、児童生徒をとりまく資源の総力で関わることが、児童生徒の「困り」を和らげることに繋がっていると実感した。
- 特別支援教育支援員の入り込み指導や担任・保護者・関係機関等との情報交換がスムーズになった。
- 教科指導に関して、教科指導スーパーバイザーの指導のもと授業づくりを行い、児童生徒が主体的に楽しく参加できる授業をめざした。
- 小中高の教員で「国語・算数数学・英語」の担当者が共に話し合い、連携した授業づくりの場がもてた。
- 11月29日、平成29年度研究報告会を開催し、授業参観者約154名（保護者除く）シンポジウム参加者（88名）を得て、本学園の取組を発信することができた。小学校「国語・算数・英語」中学校「国語・英語」高等学校「数学・英語」の公開授業を行った。
- 1時間の授業の流れのルーティン化（授業の流れに見通しがもてるように）や個の「学び方の違い」を前提とした授業の構成や進め方について、また順序にそった思考過程等を意識した授業づくりをめざす方向性が確認できた。
- 「光華型スクールクラスターの構築」をめざすという方向性を運営協議委員の先生に示していただき、本学園としての研究の方向性が確認できた。

## 5. 取組内容

### ・教科指導法研究事業運営協議会の設置状況とスーパーバイザーの配置状況・活動内容

#### (1) 組織メンバー

- 運営協議会メンバー（障害特性理解・教員の専門性向上等支援）  
相澤雅文（京都教育大学特別支援教育臨床実践センター教授）  
徳田仁子（京都光華女子大学健康科学部心理学科教授）  
佐々木勝一（京都光華女子大学健康科学部医療福祉学科社会福祉専攻教授）  
柴垣 登（京都市教育委員会総合育成支援課首席指導主事）
- 教科指導法スーパーバイザー設置（小中一貫・算数数学・国語・英語等指導）  
西孝一郎（京都光華女子大学こども教育学部こども教育学科准教授…一貫教育）  
河原聡子（京都光華女子大学こども教育学部こども教育学科准教授…算数数学）  
谷本寛文（京都光華女子大学こども教育学部こども教育学科講師…国語）  
齋藤由紀（大阪国際大学准教授…英語）
- 校内委員会メンバー  
小中高校長・副校長・特別支援教育コーディネータ（小中高）・研究部長（小中高）  
養護教諭・保健部長・進路部長・国語科主任・算数数学主任・英語科主任  
スクールカウンセラー・気づきサロン担当カウンセラー・特別支援教育支援員

#### (2) 運営協議会等の実施

6月21日	第1回運営協議会	全体会	分科会	教科別協議会
8月28日	幼小中高合同研修			
9月20日	教科指導法研究「国語・算数数学」合同会議			
10月17日	第2回運営協議会	全体会	分科会	教科別協議会
11月8日	シンポジウム事前打合わせ			
1月25日	幼小中高合同研修			
2月16日	第3回運営協議会			

\* 特別支援教育関係研修会校種別は別途開催

\* 要該当児童生徒のケース会議等を適宜持ち、運営協議会で状況を報告

#### (3) 教科別「授業づくり」

\* 英語科教員研修会と小学校英語研修（小学校教員全員）は別途計画的に実施

校種	内容（指導者：齋藤由紀 T）	該当教員
小学校	授業研修・研究協議・指導 全体研修 新学習指導要領学習会 (発達障害基本認識と支援方法)	小4年・5年・6年（授業研修） 小学校英語活動と教科英語について 各クラスの要支援児童の実態を共通理解
中学校 高等学校	授業研修・事後指導協議 英語教科会にて授業工夫等協議	英語科教員（6・10月授業研修と協議） 年間計画のもと教員授業研修

\* 小中高の教員と授業アドバイザーの先生による授業作りの勉強会を定期的を実施

国語授業アドバイザー谷本寛文 T による教室入り込み指導（週2回程度）

算数数学授業アドバイザー河原聡子 T による教室入り込み指導（週2回程度）

\* 特別支援教育支援員の教室への入り込み指導による教科担当者との打合わせ会

- ① 教科の学習上のつまずきなど特定の困難を示す児童生徒に対する指導方法及び指導の方向性の在り方の研究

**★1. 教科名 小学校「国語」**

**★2. 対象とした学校, 学年 光華小学校 3年生**

**★3. 対象とした児童生徒のつまずきの状況**

A 女: 自閉症スペクトラム (板書を写すのが苦手・興味にかたより・周囲の刺激にすぐ反応し, 注意が散漫になる・大きな音が苦手・友人関係が築きにくい)

B 男: 自閉症スペクトラム (興味にかたより・適切な大きさ速さで話すことが難しい・話が飛躍する・不器用・周囲の刺激に反応・教員の話が聞かず突然答えを言う・雰囲気を読めない等)

C 男: 漢字が覚えられない・多人数 (3人以上) になると思いが言えない

D 男: 教室や集団で学習することに極度な不安がある

**★4. 教科における学習上のつまずきを把握するための方策**

① 実態把握の時期: 4月から

② 実態把握の方法 (実施者・方法):

(実施者) 担任・教科担任・特別支援教育支援員・管理職・保護者等  
(方法) 観察, ノート・プリント点検, 会話, 気づきのシート

**★5. 実施した指導内容**

① 学習上においてつまずいている内容

- ・漢字, 言語 (人前で話しにくい), 空気が読めない, 板書を写す速度が遅い, 学習内容や方法, 答えがあいまいなことに不安を感じる
- ・グループやみんなの前で意見を言うことが苦手である。

② つまずいている背景・原因

- ・失敗体験 (1年の時にひらがなや漢字練習で過度の訂正を強いられ, 丁寧な字を書くことに固執し, 早く書くことができない。)
- ・間違えることを極度に恐れ, 間違えるとパニックを起こす。
- ・見通しがいいことに不安を感じる。
- ・こだわりが強く, 自分のパターンでしかできない。

③ ①に対し実施した指導方法 (工夫した点 (授業中, 授業外))

- ・話を聞いて認めてやる。
- ・ペア学習を取り入れ, 少人数で話ができるようにする。
- ・写すことへの不安解消のため, 板書をプリントで渡しておく。
- ・支援カードの提示
- ・個別で声かけをする。また特別支援教育支援員が横につく。
- ・家庭学習の量や内容の精選。

④ ③の結果（児童生徒の変容を含む）

- ・むらはあるが、大声でわめくことは少しずつ減ってきている。
- ・話を聞き、クラスで認めてもらうことで、安定した気持ちで過ごしている。
- ・ペアで、またみんなの前でも思いが伝えられるようになった。
- ・支援カードを見て学習を進めている。

⑤ 効果がある具体的な指導方法

- ・支援のための提示（横の壁に貼っておく）
  - ・やる気を育てる具体策
    - 見えにくいものを見えやすくする
    - 声のものさし（どれくらいの声の大きさがいいのか絵で表す）
    - 発表の仕方
      - はい…です。
      - わたしは…だと思えます。
- そのわけは…だからです。等
- 聞き方の注意
    - 「あいうえお」
    - あ…相手を見て聞く
    - い…いっしょうけんめい聞く
    - う…うなずきながら聞く
    - え…（やさしい）えがおで聞く
    - お…終わりまで聞く

① 教科の学習上のつまずきなど特定の困難を示す児童生徒に対する指導方法及び指導の方向性の在り方の研究

★1. 教科名 中学校「国語」 (『少年の日の思い出』ヘルマン・ヘッセ)

★2. 対象とした学校, 学年 京都光華中学校 1年生

★3. 対象とした児童生徒のつまずきの状況

○長い小説が読めない。(内容理解ができない。)

・登場人物が混乱する。

会話文の場合, どの登場人物が話しているのかが分からない。

「客」＝「彼」＝「友人」＝「僕」が同一人物なのかどうか分からない。

・登場人物の心情が読みとれない。

「不愉快・恥ずかしい・興奮する・チョウを見たい」など直接気持ちを表現している言葉は分かるが, 情景描写や行動の描写と心情の描写が繋がらない。

例えば次のような箇所(直接, 気持ちが書いていないところ)

「僕は立ち去った」(僕はどんな気持ちで立ち去ったのか)

「母が根掘り葉掘り聞こうとしないで, 僕にキスだけして, 構わずにおいてくれた」(母はどんな気持ちで構わずにおいてくれたのか)

「チョウを一つ一つ取り出し, 指で粉々に押し潰してしまった」

(指をつかってチョウを潰したときの僕の気持はどうだったのか) など。

・時間経過が読み取れない。

いつの話なのか, 今(現在)なのか, 昔(過去)なのか, 過去ならどのくらい前の話なのか分からない。

・後から見たときに分かりやすくノートにまとめられない。

★4. 教科における学習上のつまずきを把握するための方策

①実態把握の時期: 4月から

②実態把握の方法(実施者・方法): 担任, 教科担任等

ノート点検・ワーク点検(教材が終わる毎・定期テストの後)・定期テスト・気づきのシート

★5. 実施した指導内容

①学習上においてつまずいている内容

上記3参照

②つまずいている背景・原因

・「小説を読む」とはどういうことかわからない。

・何からやればいいのか, 何ができればいいのかわからない。

・自分だけ違うことを怖がる。人と同じでないとダメだと考えている。

・答えを探そうとする。

・これまで前に示された板書を書き写すことだけをしてきた。

③①に対し実施した指導方法(工夫した点(授業中, 授業外))

・教科としてのクラス作り(自分の意見が言える雰囲気)継続

・自分の言葉で話す・説明する時間作り ペア ⇒ 4人

・50分の授業スタイルの確立

〈長い小説を読むときについて〉

- ・小説を読むときの型を教える。(視点・登場人物・設定・プロット・構造・主題)
- ・クイズ形式(全員が理解できている内容に関して)にして、楽しく内容の確認が出来るようにする。
- ・口頭で言うだけでなく、必ず目に見えるようにし、かつ口頭でも言う。  
(パワーポイントの利用 電子黒板の活用)

〈登場人物の確認について〉

- ・教科書に色分けをして線を引く(または囲む)。同一人物は同じ色にする。
- ・黒板にカードを貼って確認する。中心人物は色をつけて区別する。
- ・会話文はカギ括弧の前後をよく読んで、誰が話しているのかを確認する。
- ・読むときに、地の文・「私」・「客」と役割分担をする。

〈登場人物の心情について〉

- ・行動と気持ちを表す表現に鉛筆で線を引く。もう一度読んで、行動は青色・気持ちは赤色など色分けをしていく。色分けをする過程で、行動なのか気持ちなのかを考えるようになり、自分で判断できないときはグループのメンバーに聞いたり、教員に聞いたりして確認しながら進められた。

→例えば、「すっかり興奮してしまっ」(気持ち)、「見られるときの来るのが待ちきれなくなった」(気持ち)、「中庭を越えて、隣の家の四階へ上がっていった」(行動)「部屋の戸をノックした」(行動)、「せめて例のチョウを見たい」(気持ち)

- ・行動と気持ちを色分けすることで、行動と気持ちが関連していることに気づき、内容理解にもつながった。行動を一覧にした紙に気持ちを当てはめていけるように「気持ちカード」を用意し、グループで教科書を確認しながら当てはめていった。
- ・曖昧な言葉「根掘り葉掘り」は辞書で意味調べをし、短文を作って確認する。意味だけでは理解しにくい。

〈お助けカード〉

- ・書斎・葉巻・ランプ・展翹・胴乱・ワモンキシタバ・コムラサキ・クジャクヤママユなどイメージしにくいものの写真を用意し、グループごとに見られるようにする。

〈時間経過について〉

- ・年齢を表す言葉や時間を表す言葉を教科書から探し印をつけることで、ここからは〇〇だ、と目で見て分かるようにする。

〈ノートについて〉

- ・教員が黒板に書いたことを書き写すのではなく、自分で書く。人と違っていてもよい。
- ・書けない生徒のために書画カメラで例を示す。(自分で書けない生徒は例を見ながら書く。工夫できる生徒は、自分でどんどん書いていく。)
- ・文章を書く場合(意見文・感想文など)は書き出しを示し、続きを書くようにする。

④③の結果(児童生徒の変容を含む)

⑥ 効果がある具体的な指導方法

- ・どれも効果的であった。

① 教科の学習上のつまずきなど特定の困難を示す児童生徒に対する指導方法及び指導の方向性の在り方の研究

★1. 教科名 高等学校「国語」

★2. 対象とした学校, 学年 京都光華高等学校 2年生

★3. 対象とした児童生徒のつまずきの状況

- ・言葉と言葉をつなぐことが苦手（一語だけで判断してしまう）
- ・現在過去未来の時系列を読み取ることが苦手
- ・情報の取捨選択が苦手
- ・主語と述語の係り受けを読み取ることが苦手

★4. 教科における学習上のつまずきを把握するための方策

①実態把握の時期：4月～

②実態把握の方法（実施者・方法）：担任や教科担当

ノート・ワーク・定期テストの答案用紙・気づきのシート

★5. 実施した指導内容

①学習上においてつまずいている内容

- ・言葉と言葉をつなぐこと（一語だけで判断してしまう）
- ・現在過去未来の時系列を読み取ること
- ・情報の取捨選択
- ・主語と述語の係り受けを読み取る
- ・自分の思いを言葉で説明すること，文字にはできるが話すことが苦手

②つまずいている背景・原因

- ・日頃のコミュニケーション不足
- ・LINEなどの影響か，単語で話をする癖がある。文章化しない日常
- ・粘り強く意見を言い合うことがない（争いが無い）

③①に対し実施した指導方法（工夫した点（授業中，授業外））

（授業中）

- ・文章の「読みの型」を意識させる。どう読むのか。
- ・事実と意見を使い分けられるように読み取りの練習
- ・情報を取捨選択できるよう，根拠を明確にする練習
- ・根拠は2つ以上探して整理する練習
- ・文章を図や表で整理する取組
- ・体系的に整理する手立て（絵や動作にして表現する）
- ・話型の指導

- ・初読後に整理する。誰がどこで何をどのように意識する。

（授業外）

- ・話し方に注意。日頃の面談など教員との会話にも注意をはらう。
- ・人権問題学習を有効活用。SNSなど文字の受け取られ方について日頃から意識させる。
- ・小さなコミュニティから大きなコミュニティへ



④③の結果（児童生徒の変容を含む）

- ・小さなコミュニティで自分の意見が認められることで自己肯定感が高まった。→グループの中で意見が言える→クラス全体の中で意見が言える。
- ・文章の「読み方」が分かることでなんとなく読むことがなくなる。
- ・根拠をもって説明するという意識が生まれた。
- ・自分の意見を発表して他者の意見とすりあわせることで議論が生まれるようになった。

⑤効果がある具体的な指導方法

- ・オープンな内容で議論のできる発問

★6 まとめ 「国語科」

①教科における学習上のつまづくポイント

- ・「文学的文章を読む」「説明的文章を読む」とはどういうことかわからない。
- ・何からやればいいのか、何ができればいいのかがわからない。
- ・自分だけ違うことを怖がる。人と同じでないとダメだと考えている。
- ・答えを探そうとする。
- ・これまで前に示された板書を書き写すことだけをしてきた。

②つまづくポイントにおける効果がある指導方法・内容

- ・視覚化，動作化。
- ・教科としてのクラス作り（自分の意見が言える雰囲気）
- ・自分の言葉で話し，説明する時間作り ペア ⇒ 4人
- ・50分の授業スタイルの確立
- ・こだわりのある児童が多いということから，多様な方法を準備しておく。
- ・個の「学び方の違い」を前提とした授業の構成や進め方ができるようにする。
- ・思考の順序を明確に示す。

③事前につまづかないようにするための指導の工夫・内容

- ・内容に入る前に，文学的文章の場合，説明的文章の場合それぞれの基本形（スタンダード）を確認する。（どう読めばよいのか）
- ・文法や漢字，国語に関する知識など，継続的に授業で扱う。
- ・視覚化したものを提示する。
- ・授業の焦点化（シンプル），視覚化（ビジュアル），共有化（シェア）
- ・授業の流れに見通しがもてるようにする。

④通常の学級の授業における有用な指導方策

- ・グループ，ペアで話し合いを行う時に型を示す。
- ・役割を明確にする。
- ・一人ひとりを大切にする学級づくり，学校づくり
- ・違いを認め合える環境，間違ってもいいという安心感。
- ・対話的活動の工夫をする。

- ① 教科の学習上のつまずきなど特定の困難を示す児童生徒に対する指導方法及び指導の方向性の在り方の研究

★1. 教科名 小学校「算数」

★2. 対象とした学校, 学年 光華小学校 3年生

★3. 対象とした児童生徒のつまずきの状況

- ・思ったことがすぐに声に出てしまう。指示を聞いて行動することが難しい。
- ・ルーティン化されたことは得意である。
- ・座席にじっと座っているのが苦手
- ・こだわりが強く、初めてのことや、苦手なことに極度の不安を感じる。

★4. 教科における学習上のつまずきを把握するための方策

①実態把握の時期：4月から

②実態把握の方法（実施者・方法）：担任，保護者，支援員，管理職等  
授業中，休憩時間等の行動観察 「気づきのシート」

★5. 実施した指導内容

①学習上においてつまずいている内容

- ・集中が続かない。
- ・数字の大きさ（整数・小数・分数）がわかりにくい。
- ・図と関係づけて説明することが苦手。
- ・小数点の位取りがわかりにくい。

②つまずいている背景・原因

- ・数字に対する抵抗感
- ・失敗体験がトラウマになっている。
- ・こだわりが強く，自分にあわないやり方への不満
- ・数直線が引きにくい，人より時間がかかる。

③①に対し実施した指導方法（工夫した点（授業中，授業外））

- ・45分間の授業をパターン化する。

「問題→めあて→見通し→自力解決→話し合い→まとめ→適応題→振り返り」の定着を図った。

- ・机間指導で細やかに様子を見て指導する。
- ・問題 ⇄ 図，図 ⇄ 式，式 ⇄ 答，答 ⇄ 確かめ ⇒ 発展 と順序にそって説明させる。
- ・集団の中では，理解しにくい，一対一で話すと分かるので，丁寧に時間をとって説明する。
- ・ほめるとやる気をだすので，宿題プリントを返却するときに一言付け加えるように心がける。
- ・数直線の仕組み等，既習内容が重要になってくるものは教室横に掲示して視覚

的にとらえ、考える手がかりになるようにしている。

- ・言葉、式、図などを用いて考えたり説明したりしやすいようにパターンを練習させ自分でノートにまとめられるようにノート指導に力を入れてきた。
- ・めあては青色のペンで、まとめは赤色のペンで囲むことでノートを見たときに学習した過程が分かるように意識した。
- ・書画カメラでノートを写したり、指導過程を視覚によって確認させる等 ICT の活用を行った。
- ・ノートの良い例「お手本ノート」を提示し、自分のノートづくりに意欲を持たせた。
- ・旺盛な興味関心や活動力を生かすため、問題解決のための教室内の自由な立ち歩きを取り入れる。

④③の結果（児童生徒の変容を含む）

- ・方向性がわかれば、学習活動に興味を持ち、進んで取り組む姿がみられた。
- ・ノートづくりを通して書く力が付いた。

⑤効果がある具体的な指導方法

- ・個別に具体的な声掛けをする。
- ・自信のない部分をわかりやすく説明してくれる友だちを見つけ、考え合う場面を設定する。

① 教科の学習上のつまずきなど特定の困難を示す児童生徒に対する指導方法及び指導の方向性の在り方の研究

★1. 教科名 中学校「数学」

★2. 対象とした学校, 学年 京都光華中学校 1年生

★3. 対象とした児童生徒のつまずきの状況

- ・計算が遅い。数字に抵抗感がある。
- ・前時の内容が把握できていない。定着しにくい。
- ・板書内容をノートにまとめるのが遅い。
- ・図形が苦手。図形を正確に写すのが苦手。
- ・早合点や飛躍した考えをする。

★4. 教科における学習上のつまずきを把握するための方策

①実態把握の時期： 4月から

②実態把握の方法（実施者・方法）：担任や教科担当

定期テスト・単元テスト・小テストの実施と気づきのシート

ノートの回収と内容チェック（考査毎）、授業でのこまめな机間巡視

★5. 実施した指導内容

①学習上においてつまずいている内容

- ・分数, 小数の計算が苦手。
- ・簡単な四則計算が苦手で, 間違えることが多くなる。
- ・小学校の履修内容や前回の授業内容と本時のつながりが薄く, 本時の内容がなかなか定着しない。

②つまずいている背景・原因

- ・既習の内容とのつながりを理解しないで覚えようとすることで, すぐ内容を忘れてしまう。小学校の授業で考えたり発表する機会が少なかった。
- ・間違いを極度にいやがり, 正解をノートに書かないと困るという感覚で板書を写すことに集中してしまい, 考えることができない。

③①に対し実施した指導方法（工夫した点（授業中, 授業外））

- ・本時の授業の流れをはっきりさせる。  
本時の取り組む内容, 身に付けるべき内容を明確にする。
- ・導入を充実させて, 本時の内容と前時までのつながりをしっかりつかませる。
- ・ノートをとらせる場面を設定する。  
導入と展開のはじめは, 「話を聞く」「考える」「意見を述べる」だけ。  
発問は広い視野で正解の多様な問いを投げかける。
- ・ペアや小グループでお互いに意見交換をしてノートにまとめさせる。
- ・ノートにまとめたことを基にして, 一人で問題に取り組む。
- ・毎時間5分間で事前に知らせた内容の計算テストを実施し, できる喜びを味わわせる。

- ・放課後まなび教室での学習は圧倒的に数学の希望が多い。授業で習ったことや次回の範囲を心理専攻の大学生や特別支援教育支援員とともに個別学習の時間を設けている。(そこでは iPad やパズルなど様々な脳トレ道具を使って楽しみながら学習をしている)

④③の結果 (児童生徒の変容を含む)

- ・短時間で少ない問題数のテストを実施することで、取り組みやすくなり、達成感も得られ、次に向けて取り組む姿勢が見えてきた。
- ・「正解をいわなければならない」とか、「間違ったら困る」という雰囲気なくなり、よく考えて自由な発想で発言するようになった。
- ・ノートにまとめる時間を確保していることで、ペア学習や小グループでの活動が「しゃべって終わり」ではなく、整理する力もついてきた。

⑤効果がある具体的な指導方法

- ・実施する内容を細かくわけることでメリハリがつく。  
「考えよう」や「解いてみよう」も1分、5分など必ず時間を指定することで、目標が見えてくる。  
生徒が話し合うときや課題に取り組む際には電子黒板上でストップウォッチを提示するようにしている。

① 教科の学習上のつまずきなど特定の困難を示す児童生徒に対する指導方法及び指導の方向性の在り方の研究

<p>★1. 教科名                      高等学校「数学Ⅰ」</p>
<p>★2. 対象とした学校, 学年                      京都光華高等学校 1 年</p>
<p>★3. 対象とした児童生徒のつまずきの状況</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 前時の内容が把握できていない。</li><li>・ 板書内容をノートにまとめることができていない。</li><li>・ 字を書くのが遅い。</li><li>・ 数字に対する抵抗感がある。</li><li>・ 間違えることに不安感をもつため消極的な姿勢になっている。</li></ul>
<p>★4. 教科における学習上のつまずきを把握するための方策</p> <p>①実態把握の時期：4 月から</p> <p>②実態把握の方法（実施者・方法）：担任や教科担当, 支援員等 定期テスト・小テストの実施とつまずきのチェック・ノートの回収と内容 チェック（考査毎）・自作プリントの演習と回収チェック・普段の授業での 取組</p>
<p>★5. 実施した指導内容</p> <p>①学習上においてつまずいている内容</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 分数, 小数の計算が苦手である。</li><li>・ 中学校の履修内容や前時の授業内容が理解し切れていないため, 本時の授業 では何をどのように用いて考察すればよいかわからない。</li><li>・ 形の認識が出来ない。</li></ul> <p>②つまずいている背景・原因</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ ノートの整理の仕方が分からず, 頭の中も混乱している</li><li>・ 数字が苦手</li><li>・ 図形を回転させたり, 見比べることが苦手。</li></ul> <p>③①に対し実施した指導方法（工夫した点（授業中, 授業外））</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ ユニバーサルデザインの徹底</li><li>・ 本時の取り組む内容, 身に付けるべき内容を明確化</li><li>・ 話を聞く時間, 考える時間, ノートにまとめる時間, 演習に取り組む時間な ど明確にわかる。</li><li>・ 授業開始時に 2 分間の計算問題に取り組み, 計算力の定着を図る。</li><li>・ 授業開始時に, 中学校の復習内容や前時の学習内容についてペア学習を行 い, つまずきを解消する。</li><li>・ ノートの使い方, 書き方などに型を示す。</li></ul> <p>④③の結果（児童生徒の変容を含む）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ ノートをうまくまとめることができなかつた生徒がノートをきちんとまとめ</li></ul>

ることができて、問題を考えることができるようになった。

- ・小学校・中学校の復習内容も理解し、テストでつまずくところが減った。
- ・単元の終わりの応用問題の正答率が上がった。

#### ⑤効果がある具体的な指導方法

- ・授業内で話を聞く時間、考える時間、板書をとる時間を明確にわけることによって、今何をやる時間かがわかり、授業参加がしやすくなった。また復習内容をペアで話し合うことで、先生に質問しにくいと感じる内容も生徒間で相談しやすくなり、つまずきが減った。
- ・使う公式をあらかじめ書いておく。
- ・図形のうえに色別にした公式をはる。
- ・具体的なイメージが持てる物（図形のカードなど）を持たせることが必要

### ★6 まとめ 「算数 数学」科

#### ①教科における学習上のつまずくポイント

- ・集団学習の中で自ら課題を認識し、取り組むことが難しい。
- ・学習内容が積み上がっていない。

#### ②つまずくポイントにおける効果がある指導方法・内容

- ・つまずきのある生徒や苦手意識のある生徒に数学的な考え方を習熟させるため、学習のポイントとなる事柄（解き方・定理・公式など）を常に分かる環境にする。
- ・つまずきの多くは、既習内容の理解不足にあるため、その都度理解できていない部分まで戻りながらピンポイントで積み上げていく。

#### ③事前につまづかないようにするための指導の工夫・内容

- ・既習内容や重要事項を順序立ててわかりやすく提示し、授業を効果的に進める工夫。
- ・スモールステップの授業  
つまずきやすい部分を予測し、教科書にない例題などを用意しておく。
- ・今までに学習した内容について、ペアで問題を出し合ったり、相談をしたりしながら復習を行う。
- ・学習した内容を定着させるために、こまめに復習を行うことで定着を図る。今までに習った内容に関しては授業前に復習を行い、今後のつまずきを減らす。
- ・つまずきのある児童や苦手意識のある児童に数学的な考え方を習熟させるため、学習のポイントとなる事柄（解き方・定理・公式など）を常に分かる環境にする。
- ・解き方のパターンを図式化する。

#### ④通常の学級の授業における有用な指導方策

- ・学習内容を表す掲示物を作り、その時々に必要なものを貼ることによって、視覚的に授業内容を理解し、学習に取り組みやすいように取り組んだ。
- ・「この時間はこういった学習をしようとしているのか？ そのために今何をしているのか？」ということをして、生徒全員が理解できている状況を作る。

- ① 教科の学習上のつまずきなど特定の困難を示す児童生徒に対する指導方法及び指導の方向性の在り方の研究

★1. 教科名 小学校「英語活動」「英語」

★2. 対象とした学校, 学年 光華小学校 4年生・6年生

★3. 対象とした児童生徒のつまずきの状況

- ・発音に不安があり, 声が小さくなる。
- ・聞き取りが弱い

★4. 教科における学習上のつまずきを把握するための方策

①実態把握の時期: 4月～

②実態把握の方法 (実施者・方法):

実施者: 担任や教科担当・管理職

方法: 英語の授業時によるコミュニケーション時

★5. 実施した指導内容

①学習上においてつまずいている内容

- ・発音が自信を持ってできていない。
- ・ペアワークやグループワークで消極的な児童はいるが, 今の所大きなつまずきは把握できていない。

②つまずいている背景・原因

- ・英語に対する苦手意識, 恥ずかしさ

③①に対し実施した指導方法 (工夫した点 (授業中, 授業外))

- ・授業で使うフレーズを何度もチャンツで繰り返す。
- ・近くに担任が行って, 一緒に発音する。
- ・英語活動では「いきいきと思いを伝える姿をめざして～読むこと, 書くこと つなげる言語活動の工夫～」を主題に研究をしている。  
英語活動では, 高学年の英語でつまずかないように, ヘボン式ローマ字学習を取り入れている。

④③の結果 (児童生徒の変容を含む)

- ・少しずつ, 声が大きくなってきた。
- ・英語に対して自信がつき, 話したいという気持ちがわいてきている。

⑤効果がある具体的な指導方法

- ・リズムで覚えさせる。
- ・発音が合っていたら, 褒める。
- ・耳から音を聞く練習時には同時に絵を見て視覚的な情報取り入れている。
- ・英語の単語を読ませたり書かせたりすることの導入は慎重に行い, 聞くこと, 話すことに十分な時間をかけて楽しませている。



① 教科の学習上のつまずきなど特定の困難を示す児童生徒に対する指導方法及び指導の方向性の在り方の研究

★1. 教科名 中学校 「英語」

★2. 対象とした学校, 学年 光華小学校 4年生・6年生

★3. 対象とした児童生徒のつまずきの状況

- ・こだわりがきつく, 見通しが見つからないことにはパニックをおこすこともある。
- ・相手の気持ちが受け取りにくい。

★4. 教科における学習上のつまずきを把握するための方策

①実態把握の時期: 4月

②実態把握の方法 (実施者・方法)

実施者: 教科担任・担任・教科会

方法: 英語の授業時によるコミュニケーション

★5. 実施した指導内容

① 学習上においてつまずいている内容

- ・発音はできるが, 英単語が書けない。
- ・わかりやすく相手につたえることが苦手である。

② つまずいている背景・原因

- ・発音と文字の結びつきが理解できない。
- ・小学校のローマ字と英語の単語のスペルの違いに混乱している。
- ・こだわりがきつく, 思っていたことと違った場面では混乱が起きる。
- ・相手の気持ちを推し量ることができない。

③ ①に対し実施した指導方法 (工夫した点 (授業中, 授業外))

- ・授業で使うフレーズを何度もチャンツで繰り返す。
- ・授業の組み立て自立学習の進め方, ノートの取り方等の徹底指導
- ・本人の課題を明確にすること
- ・発音と単語 (文字) の結びつけは, 個別指導が必要である。

④③の結果 (児童生徒の変容を含む)

- ・自分の課題を確認し, 意欲的に家庭学習を行い, 課題をクリアしようとしている。
- ・下記の授業の流れを丁寧にマスターさせることで生徒は自信をもち, 英語でのやりとりがスムーズにいくようになる。
- ・もっと話したい, そのためにもっと勉強したいと意欲を高める。
- ・英語の時間のいきいきとした姿を他の教科にも活かせるようにしたい。

⑤効果がある具体的な指導方法

- ・本時の目標の明確化と, 授業の組み立てをパターン化する。

(例) 本時の目標 「あなたの意見は？」～自分の意見や考えを伝えよう～  
授業の流れ「Q&A→Let's Talk→Presentation→Textbook→My Record  
→Reflection」

- 1ヶ月の学習予定や宿題の予定をプリントで渡しておき，やったところまでハンコを押して目に見えるがんばりを褒める。
- (小中共通で) 話し手，聞き手としての心構えを文字と絵で示して教室にはっておく。
- 相手意識をもった聞き手の指導  
「Active Listening 聞き手としての話し方のコツ」を①あいづち ②コメント ③質問としてあげ，それぞれ英語でどのように言うのか示して，基本練習をさせておく。  
これらを繰り返すことで，具体的にどのように話し，どのように自分なりに受け答えをすれば，相手が話しやすいかを体感する機会を多く設ける。

① 教科の学習上のつまずきなど特定の困難を示す児童生徒に対する指導方法及び指導の方向性の在り方の研究

★1. 教科名 高等学校 「英語」

コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ

コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ

★2. 対象とした学校、学年 京都光華高等学校 1年～3年

★3. 対象とした児童生徒のつまずきの状況

- ・聞き取った音をアルファベットで表記するのに時間がかかったり、間違いがあったりする。
- ・英文にカタカナをつけないと不安になる。
- ・単語のつづりを正確に書けるようになるのに時間がかかる。
- ・指示の仕方が変わったり、新しい活動に入ったりするときにとまどいがある。
- ・英文の構造（主語＋動詞）がなかなか定着しない。時間が経つと、日本語の語順になってしまう。
- ・一語でもわからない単語が出てくると読み進められない。前後から英文の内容を類推することが全くできない。

★4. 教科における学習上のつまずきを把握するための方策

①実態把握の時期：教科としては特に設定はしていないが、学校全体として1学期当初に担任や教科担当として気づいたことをまとめて報告している。

②実態把握の方法（実施者・方法）：教員全員が、「気づきシート」で報告をおこない、その情報を共有している。

教科担当者は、授業中に机間指導等で様子を観察したり、レポート等の提出物の状態を見たりすることにより、つまずきを把握している。

★5. 実施した指導内容

①学習上においてつまずいている内容

- ・単語のつづり（アルファベット）等を確認するとき、聞き取りだけでは正確にできない時がある。
- ・つづりと音のつながりが定着しにくい。
- ・英文の構造（主語＋動詞）がなかなか定着しないので、特にまとまった文を「書く」活動においては、個人指導が必要である。

②つまずいている背景・原因

- ・小学校時代のローマ字の学習からすでにつまずいている。（混乱）
- ・音だけを頼りに音読する傾向が強く、英文を見ながら音読していないことが多い。よって、リピートする活動はできるものの、自ら音読する活動になると間違いが多くなる。

③①に対し実施した指導方法（工夫した点（授業中、授業外））

- ・ホワイトボードにつづりを書いて示したり、聞き取って書き取れているかを机間指導などで、個別に確認するようにしている。
- ・ペアワーク等で活動が停滞している場合は、そばで支援する。
- ・授業の流れをホワイトボードに提示しているが、指示が聞き取れなかった時には、書画カメラで映す等して補助をする。
- ・例やモデル、役に立つ表現を提示してから「書く」活動を始める。
- ・放課後に個別で指導をする。
- ・英文読解に入る前に語彙リストを配付し、必要な生徒は適宜見て内容理解をするように促す。

#### ④③の結果（児童生徒の変容を含む）

- ・授業内においては、他の生徒と同じように活動をしようと努力しており、目立つことはない。
- ・プレゼンテーションに向けての準備等の授業外で行う課題については、発表前に個別で指導をすることにより、不安感なく授業に臨んでいる。
- ・語彙リストがあると、前後から内容を類推するのが苦手な生徒も英文を読もうという前向きな気持ちになれたようである。

#### ⑤効果がある具体的な指導方法

- ・効果がある指導方法は見つけられていないが、授業に意欲的に取り組めるよう支援をする必要があると思われる。

## ★6 まとめ 「英語」

### ① 教科における学習上のつまづくポイント

- ・英語だけでの指示の聞き取り。
- ・音と文字のつながりが定着しにくい生徒の音読。
- ・英語の文構造が定着しにくい。
- ・英文の中のわからない部分を、前後や文脈などから内容を類推することが難しい。

### ②つまづくポイントにおける効果がある指導方法・内容

- ・ICT 機器を適切に使用して、指示が通りにくい時に視覚的に確認をする。
- ・日常的に文構造を定着させるための日本語⇄英語の活動時間をとる。
- ・内容理解の助けになる語彙や表現のリストを事前に配付する。

### ③事前につまづかないようにするための指導の工夫・内容

- ・授業前に「授業の目標」「授業の流れ」を提示し、確認をする。
- ・ある程度授業の流れをパターン化する。
- ・振り返りシートを毎時間記入することで、家庭で何を復習すべきかについて気づかせる。

### ④通常の学級の授業における有用な指導方策

- ・シラバスに指導内容・評価法等を提示して事前に最終目標を確認したり、小テストや発表等のスケジュールを月ごとに知らせたりすることで、日々の授業でのスモールステップをきちんとやりきる姿勢を身に付けることができる。また、スケジュールに合わせて、家庭での学習計画を自主的に考えていけるよう支援することができる。

**★7 その他**

- ① 本事業のために教育委員会が実施した研修・指導主事の訪問等  
 (学校法人光華女子学園 小学校・中学校・高等学校として合同で行った研修会と各校種別に行った研修会を掲載)  
 (指導主事の訪問等については京都光華女子大学の先生方や京都市教育委員会 含む運営協議会メンバーの先生方の訪問指導を掲載)

- ★合同研修…6月 今年度の研究の方向性と具体的取組  
 8月 各校種の公開授業について 研究報告会について  
 11月 研究報告会 (公開授業シンポジウム開催)  
 1月 今年度の反省と次年度にむけて合同研修会を予定

- 校種別研修…4月 各校種 研究部長を中心に研修会  
 6月 発達障害の可能性のある児童生徒の実態把握と支援について  
 授業公開月間  
 10月 主体的対話的深い学びに向かうための授業とは  
 対話型学習について  
 授業公開月間  
 新手塾 (若手教員研修会, 研究部自主研修, 年間4回程度)

- ★京都光華女子大学こども教育学科の先生方による訪問指導  
 ・大学の教授の指導を受けながら子供たちから意見を出させ、本時のめあてに向かって進め、まとめていくような授業体制の確立。教員主導ではなく、子供同士で学び合うことで、つまずきのある児童の積極的な授業参加を促す。

- ★京都光華女子大学こども教育学科の先生方の訪問指導  
 9月～11月まで週2回程度 授業づくり勉強会  
 若手教員の大学研究室にて自主勉強会の実施

② 本事業の月別の実施主な実施内容

	実施時期	実施内容	実施内容の評価方法
1 年 次	平成29年4月	平成29年度学校運営方針で「発達障害の可能性のある児童生徒に対する教科指導法の研究について」校長より方向性を示す。 (小中高研究部合同会議)教科主任会議 研究部長より方針をだし共通理解をする	文部科学省公募書類内容  平成29年度の研究部方針
	5月	国語・算数数学・英語について、大学の指導教授と方向性を確認 年間計画を立てる 各校の児童生徒の実態を確認し、まとめる 対話型鑑賞授業から学ぶ (授業の構造化について)	支援員・SC・気づきサロン 担当者・担任・養護教諭と 支援CO等でまとめる 特別支援校内会議開催 (小中高合同)

6月	6/13 第1回運営委員会開催 発達障害の可能性のある児童生徒をふまえての教科指導の方法について 公開授業月間（研究部より提案） 教科指導について 校内研修会	運営委員の委嘱 *出張研修会参加者からの伝達研究を計画的に入れる 授業参観で課題を明確にまとめる
7月	夏季研修の計画	授業評価
8月	8/28 夏季合同研修会 （研究報告会について）	幼小中高合同
9月	発達障害の可能性のある児童生徒の実態と授業での分析・授業環境と場の構造化 ・板書・ノートテイキングの実態（教員自身が1学期の反省をもとにより確認） 9/20 「国語・算数数学」授業の方向性確認と授業づくり協議（大学の先生と）	1学期のまとめと今後の方向性をまとめる  教科担当教授との連携
10月	研究報告会指導案・授業づくり 10/17 第2回運営委員会	10/20 取組発表（全国私学研修）
11月	公開授業月間で授業の組み立て確認 11/8 シンポジウム打合わせ 11/29 研究報告会 公開授業（国語・算数数学・英語） シンポジウム開催	大学の先生教科指導
12月	授業のふりかえり	授業評価 アンケート
平成30年1月	1/25 研究報告会振り返り	
2月	2/16 第3回運営委員会予定	
3月	研究部まとめと次年度の課題と方向性確認	

## 6. 今後の課題と対応

- 発達障害の可能性のある児童生徒の教室での様子やつまずきについて、気づきのシート等や観察で認識はできているが、焦点化した児童の教科でのつまずきが十分把握できていない。
- つまずきを最小限にとどめる取組は、教員で共通理解をして授業をすすめてきたが、個の発達の特長について教科指導が不十分であった。
  - 今後、各教科・各クラスにおいて児童生徒を焦点化し、教室の中でどのような支援をすることでつまずきを解消できるか事例研究を行う。
- 要支援児童生徒を巻き込んで「分かる・できる・楽しい」授業をするには、教員の適切な誘導で、クラス全体が考える活動に参加できることが大切である。いかに学ぶ側の立場にたった授業ができるかということである
  - 個の「学び方の違い」を前提とした授業の進め方を考える。  
子供の理解レベルに合わせた支援方法を準備する。  
特に算数数学では、適応題も基本課題と発展課題を用意するなど、個によって問題数なども工夫できるように注意をする。  
教員同士の学び合いを大切に、意見交換を行い具体的指導にむすびつける。
- 「達成感、自己肯定感を高める支援と授業改善」をめざして研究を進める。
  - いかに「褒めるか」いかに「成功体験」を積ませるかを実践していく。
- 研究報告会をもち公開授業とシンポジウムを開催したが、参加者が少なかった。今後も様々な形で発信していきたい。
- 総合学園の強みを活かして「光華型スクールクラスターの構築」にむけて研究実践を行っていく。

## 7. 指定校について

### (小学校)

指定校名：光華小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	40	2	39	2	52	2	42	2	56	2	62	2
特別支援学級												
通級による指導 (対象者数)	(5)		(8)		(8)		(4)		(1)		(2)	
	校長	副校長 ・教頭	主幹教諭 指導教諭	教諭	養護教諭	栄養教諭	講師	事務職員	特別支援教育 支援員	スクール カウンセ ラー	その他	計
教職員数	(1)	2	0	17	1	0	2	1	(1)			25

※特別支援学級の対象としている障害種：

※通級による指導の対象としている障害種：LD・PDD・ADHD・ことば等

### (中学校)

指定校名：京都光華中学校												
	第1学年				第2学年				第3学年			
	生徒数		学級数		生徒数		学級数		生徒数		学級数	
通常の学級	45		2		42		2		41		2	
特別支援学級												
通級による指導 (対象者数)	(1)				(2)				(5)			
	校長	副校長 ・教頭	主幹教諭 指導教諭	教諭	養護教諭	栄養教諭	講師	事務職員	特別支援教育 支援員	スクール カウンセ ラー	その他	計
教職員数	(1)	1	0	12	(1)	0	5	(2)	(1)	1		24

※特別支援学級の対象としている障害種：

※通級による指導の対象としている障害種：LD・PDD・ADHD 等

### (高等学校)

指定校名：京都光華高等学校												
課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		その他	計	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数			
全日制	普通科	136	4	175	6	176	6					
定時制												
	校長	副校長 ・教頭	主幹教諭 指導教諭	教諭	養護教諭	栄養教諭	講師	事務職員	特別支援教育 支援員	スクール カウンセ ラー	その他	計
教職員数	1	2	0	32	(1)	0	18	4	1	1	1	61



## 8. 問い合わせ先

組織名：学校法人 光華女子学園

- (1) 担当部署 京都光華中学高等学校 事務室
- (2) 所在地 京都府京都市右京区西京極野田町39
- (3) 電話番号 075-325-5223
- (4) FAX 番号 075-311-6103
- (5) メールアドレス rh092@mail.koka.ac.jp